

事業コード	H16-農-継-10			区 分	国庫補助・ 県単独
事業名	担い手育成基盤整備事業(高度)			部 局 名	農林水産部
事業種別	土地改良総合整備			課 室 班 名	農地整備課 ほ場整備・農用地開発班 (tel)1825
路線名等	豊川			担当課長名	葭井 功治
箇所名	中仙町豊川			担当者名	主幹(兼)班長 佐々木 次郎
総合計画との関連	政策コード	N	政策名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興	
	施策コード	4	施策名	新時代に躍動する多様な農業経営体の育成	
	目標コード	2	施策目標名	生産基盤の整備促進	

1. 事業の概要

事業期間	H14~H17(4年)	総事業費	6.3 億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	排水路L=18.9km 農道L=1.0km(幅員4.0/5.0) 暗渠排水A=27.1ha					
事業の立案に至る背景	<p>・本地区は中仙町の中央部に位置し、昭和40年代後半の県営ほ場整備事業により30a区画に整備されているが、排水路は経年変化による柵工の構造破壊が顕著で、土砂堆積による通水阻害など排水機能の低下が著しい。また、地下水位の高いほ場では、慢性的な排水不良となっている。さらに、農道は路面の損傷が著しく大型機械の走行に支障をきたし維持管理に苦慮している状況にある。このため、生産性の向上と維持管理費の節減などによる営農の低コスト化を図り「地域水田農業ビジョン」の着実な推進に向けた、総合的なほ場条件の整備が必要となっている。さらに、農業をめぐる厳しい情勢の中にあつて農業従事者の減少や高齢化が急速に進んでいることから、地域農業を支える多様な経営体の確保、育成が喫緊の課題となっている。</p>					
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・排水路整備、暗渠排水工による水田の汎用化を促進し、輪作体系の確立と多様な作物の産地づくり ・排水路、農道の整備による生産性の向上と維持管理経費の節減 ・農道整備により営農機械の効率性を高め低コスト化 ・ほ場条件の均一化を図り、多様な経営体への農地の利用集積を促進し経営基盤を強化 					
事業費内訳	(単位:千円)					
		全体	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度以降
事業内容	事業費	630,000	100,000	100,000	150,000	280,000
	工事費	582,000	67,327	97,375	143,545	273,753
	用補費	6,000	2,013	76	2,930	981
	その他	42,000	30,660	2,549	3,525	5,266
	財源	315,000	50,000	50,000	75,000	140,000
	県債	128,000	22,000	22,000	33,000	51,000
	その他	126,000	20,000	20,000	30,000	56,000
一般財源	61,000	8,000	8,000	12,000	33,000	
事業内容	排水路 18.9km 農道 1.0km 暗渠排水27.1ha	排水路 3.1km 農道路盤0.4km	排水路 5.0km 農道舗装0.4km	排水路 5.4km 農道路盤0.6km	排水路 5.4km 農道舗装0.6km 暗渠排水27.1ha	
事業推進上の課題	特になし。					
上位計画での位置付け	国際化の急激な進展に対応しうる生産性の高い農業経営の実現に向けて、大区画ほ場整備をはじめとする生産基盤の総合的な整備による担い手への農地の集積と新たな地域営農の展開を図るため、生産基盤であるほ場の整備を平成12~22年の11年間に14,500ha実施し、目標ほ場整備率76%と掲げている。					
関連プロジェクト等	特になし。					
事業を取り巻く情勢の変化	「県政策マスタープラン」による水田農業の望ましい姿の実現にむけ、本事業による生産基盤の整備と担い手への農地利用集積は重要なものと位置づけられている。中でも、生産基盤の整備による生産コストの低減及び汎用化水田を利用した畑作物の導入は、「地域水田農業ビジョン」の着実な推進による競争力のある産地づくりに必要不可欠なものとなっている。					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	評価箇所における担い手等が経営する面積割合			データ等の出典	a = 農業農村活性化計画書 b = 農地流動化促進事業達成状況報告 16年 5月
	指標の種類	成果指標 業績指標				
	指標式	地区内の担い手の経営面積÷ほ場整備地区面積				
	目標値 a	75.2%				
	実績値 b	53.5%				
達成率 b/a	71.1%			把握の時期		

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	指摘事項への対応			

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評価点
必 要 性	<p>地域農業の構造改革を推進するためには、農業基盤の整備を契機とした地域の合意による農地流動化を促進し、経営基盤の強化や経営力の向上が求められている。</p> <p>安全、安心な食料の安定供給と農業の多面的機能を継続的に発揮するため、効率的、安定的な農業生産を行う経営体の確保、育成が求められている。</p> <p>事業の進捗は、計画より遅れているが、事業推進上の大きな課題も無いことから計画工期での完了が見込まれる。</p>	16 点
緊 急 性	<p>排水路の改修、暗渠排水などの施工により排水条件を改善し、水田の汎用化による畑作物の輪換作付体系の確立と多様な作物の産地づくりなど「地域水田農業ビジョン」の着実な推進に向け早急に必要なものである。</p> <p>基盤整備を通じ、農地の流動化を促進し農地の利用集積を完了時までに行う。</p>	11 点
有 効 性	<p>担い手経営面積及び農地集積率について、平成15年度末時点での増加はないが、今後目標に向け集積活動を続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手経営面積の目標値 132.7ha 186.7ha 集積率75.2% ・農地集積増加率（事業完了時） 40.7% <p>あきた21総合計画にあるほ場整備率の目標達成に向けた中核的事業となっており、広域での農業の構造改革の推進は市町村合併に向けての影響も大きい。</p>	15 点
効 率 性	<p>事業の費用便益比は1.83であり効率性は非常に高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総費用の現在価値 1,303,050千円 ・総便益の現在価値 2,382,173千円 <p>事業費は現場発生土や資材の有効利用及び暗渠排水など使用資材の見直しにより、コスト縮減を検討している。</p>	20 点
熟 度	<p>地元からの申請事業であることから、関係者の合意のもとに進められている。また、関係機関との協議等も整っており事業推進に問題はない。</p> <p>事業完了後の維持管理体制は、土地改良区と関係農家が行うこととなっている。</p> <p>「秋田県公共事業に係る環境配慮方針」及び「農業農村整備環境対策指針」に基づき事業を推進している。また、実施にあたっては希少動植物の生息調査などを行ったうえで工事着手し、工事期間中は現場内からの泥水の流出防止、騒音や振動をおさえるなど、周囲の環境に配慮している。</p>	20 点
判 定	<p>ランク (○)</p> <p>「効率性」「熟度」が高い点数となっており、生産基盤の整備を通じ、地域農業を担う効率的かつ安定的な経営体の確保・育成は、地域農業の振興を図るうえで重要な施策事業として推進する。</p>	82 点
総合評価	<p>継続 改善して継続 見直し 中止 終了</p> <p>事業継続は妥当である。</p>	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

農地の汎用化を促進させるための、排水路整備、暗渠排水工を平成16、17年度に実施し、17年度完了に向けて担い手農家の育成と農地集積を促進し事業を完了する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。

別表7(1)

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所 (継続箇所)

事業コード (H16 - 農 - 継 - 10) 箇所名 (豊川)

適用事業名

ほ場整備事業

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性					
	県民のニーズ (地域住民)	一般県民を対象とした調査でニーズが高い		5	5	受益者からの申請による事業である
		一般県民を対象とした調査でニーズを把握		3		
		一般県民を対象とした調査を行っていない		1		
	社会経済情勢変化 による需要変化	増大している		5	5	県米政策マスタープラン施策事業である
		特に変化はない		3		
		低下している		1		
	事業の進捗状況					
	進捗率費	計画より進捗している		5	1	
		おおむね計画どおり(90%以上)		3		
		計画より遅れている(90%未満)		1		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる		5	5	
将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない			3			
課題は解決の見込みがなく、事業が停滞する			1			
計				20	16	
緊急性	事業未実施の影響					
	農地汎用化の推進状況	十分に取り組んでいる		5	3	
		部分的に取り組んでいる		3		
		一部しか取り組んでいない		1		
	周辺への影響	事業効果や効率性、周辺への影響等が大きい		5	5	地域水田農業ビジョンに位置付けられている事業である
		事業効果や効率性、周辺への影響等は小さい		3		
		事業効果や効率性、周辺への影響等はない		1		
	他事業との関連					
	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い		5	3	
		関連する他事業との調整で緊急性は低い。または他事業はないが、単独で十分な効果がある		3		
計				15	11	
有効性	当初計画の具体的効果発現(地区内)					
	稲作転換率の状況 (当初に対して)	同等以上である		5	1	
		進んでいない		1		
	担い手育成の状況	実施前より30%以上増加		5	1	
		実施前より1以上～30%未満の増		3		
		実施前より増加無し		1		
	担い手への農地集積率	60%以上		5	3	
		20以上～60%未満		3		
		20%未満		1		
	上位事業への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い		5	5	
		施策目標に間接的に貢献する		3		
施策目標とは別のその他関連事業である			1			
市町村合併関連	市町村合併に推進に貢献する		5	5		
	市町村合併に推進には影響しない		3			
計				25	15	
効率性	事業の投資効果					
	費用対効果	B / C = 1.1以上		5	5	
		B / C = 1.1未満		3		
	事業実施コストの縮減					
	対策内容	検討し実施している、又は実施する予定		5	5	
		検討していない		0		
	当初計画との比較					
	当初計画事業費からの増減	減少又は増加なし		10	10	
		10%未満の増加		6		
		10%以上の増加		2		
計				20	20	
熟度	事業の推進					
	事業の同意状況	全員同意が得られている		5	5	
		若干の未同意者がいるが事業実施に支障はない		3		
		若干の未同意者がいるが事業実施に支障がある		1		
	他官庁との協議調整	協議・調整済みで事業推進に影響はない		5	5	
		協議・調整中であるが事業推進に影響はない		3		
		協議・調整中で事業推進に影響する		1		
	将来の維持管理					
	維持管理体制	管理者・受託者が確定済み		5	5	
		協議中であるが合意見込み		3		
	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮している		5	5	
配慮している			3			
配慮が不十分である			1			
計				20	20	
合計				100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	合計点	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上	82	
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		